

厚生労働科学研究
「薬学6年制に対応した国家試験の円滑な実施のための
問題作成の在り方に関する研究」

○研究の概要

近年の医療の高度化、医療制度改革等により、薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しており、平成18年度からは、臨床に係る実践的な能力を有する薬剤師を輩出すべく、6年制の薬学教育課程を修めて卒業した者に薬剤師国家試験の受験資格が与えられることとなった。

このような状況の下、平成19年6月には、薬剤師国家試験出題制度検討会が設置され、本年7月に報告書がとりまとめられた。本報告書によると、「必須問題」「一般問題（薬学理論問題）」「一般問題（薬学実践問題）」の3つの出題区分として、薬学全ての領域から出題されることになる。その中でも特に「一般問題（薬学実践問題）」の作成にあたっては、多領域にまたがる複合的な問題作成が求められ、出題数の増加や今後期待される出題基準の見直し等に伴い、より一層、問題作成のための体制を強化する必要がある。また、「各領域の関係者が複数である必要があり、問題作成の初期の段階から共同で行われることが適当である。」との記載はあるが、その具体的方策等は示されていない。

本研究においては、平成24年度から6年制課程を卒業した者が薬剤師国家試験を受験するにあたり、国家試験の作成体制の構築、問題及び回答方法に関する調査研究を行うとともに、国家試験の公平性及び客観性を確保しつつ、出題の標準化に関する方策等を明らかにする。

○研究計画の概要

平成21年度～平成22年度に以下を実施

- ① 薬学実践問題の作成方針の検討
- ② 薬学実践問題の作成
- ③ 薬学実践問題の精査
- ④ 全国の薬学部・薬科大学から意見の聴取と分析
- ⑤ 各薬学部等からの意見の聴取結果を基に薬学実践問題の作成
- ⑥ 必須問題に関する基本方針とその対象分野

⑦ 一般問題の出題形式等

○研究者

研究代表者

笹津備規 (東京薬科大学)

研究分担者

宮内正二 (松山大学)

高橋秀依 (帝京大学)

本間浩 (北里大学)

福井哲也 (星薬科大学)

小山豊 (大阪大谷大学)

伊藤清美 (武蔵野大学)

檀上和美 (名城大学)

山田安彦 (東京薬科大学)

亀井美和子 (昭和大学)